

## 第2章 教育を取り巻く社会情勢

### 1 人口減少・少子高齢化の進展

日本の人口は、平成 20（2008）年をピークに減少傾向にあり、その内訳を見ると年少人口（15 歳未満）と生産年齢人口（15 歳から 64 歳まで）がともに減少傾向である一方、老年人口（65 歳以上）は増加を続けています。

本市においても、平成 12（2000）年をピークに人口は減少傾向にあり、小・中学校の児童生徒の減少に伴い学校の小規模化が進む一方、老年人口は現在も増加を続けており、高齢者から若者まで元気に活躍し続けられる環境づくりが求められています。

### 2 急速な技術革新

インターネットが普及し、スマートフォンやパソコンなどの情報通信機器は幅広い世代に普及しており、日常生活や企業活動を支える社会的基盤となっています。また、人工知能（AI）<sup>\*</sup>の高度化が進み、自動運転機能や介護ロボットなどが実用化され、私たちの社会や生活を大きく変えていく超スマート社会（Society5.0）<sup>\*</sup>の到来が予想されています。

一方で、インターネット上のいじめや無責任な非難・批判の集中、ネット依存などの問題が発生しているほか、将来、仕事の多くがさらに進化した AI に置き換わってしまうのではないかと懸念も生じています。

### 3 グローバル化の進展

情報通信技術（ICT）<sup>\*</sup>や交通手段の発達、国際的な市場開放など、世界の国々の相互影響の度合いが高まる中、社会のあらゆる分野において国境を越えた人・物・情報の移動が活発化する一方、環境問題やエネルギー資源問題など、地球規模での課題も増大しています。

本市においても社会や経済におけるグローバル化が進み、外国人観光客の増加や TPP11 協定<sup>\*</sup>による地域産業への影響などが予測されており、多様な倫理観・価値観を理解、尊重し受け入れる寛容さを備えるとともに、グローバルな視野と行動力を持ち、これからの産業や暮らしを支える人材の育成が一層求められています。

## 4 地域のつながりの希薄化

核家族化や都市化、情報化の進展などにより地域の人々の付き合いが疎遠となり、町内会の加入率が低下するなど、地域コミュニティの弱体化が指摘されており、ボランティア活動の構成員の高齢化や担い手不足が生じています。

また、人間関係や地縁的なつながりの希薄化などを要因として、地域の人々との関わりの中で、様々な体験を通じて子どもたちの自主性や社会性、創造性などを涵養する地域の教育力の低下が指摘されています。

## 5 働き方やライフスタイルの変化

社会の成熟化に伴い、個人の価値観やライフスタイルが多様化しており、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）や仕事以外の時間を創造的かつ生産的に過ごすということが、個人の幸福や生きがいにとって重要性を増してきています。

また、人生 100 年時代を迎え、誰もがあらゆる機会に学び続け、その可能性を最大限に引き出すとともに、学んだ成果を生かして豊かな人生を送ることができる環境づくりが求められています。

- 
- ※ **人工知能（AI）** 人間が持っている認識や推論などの能力をコンピュータでも可能にするための技術の総称。Artificial Intelligence の略。
  - ※ **超スマート社会（Society5.0）** ロボット、人工知能、ビッグデータ等の新たな技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れてイノベーションを創出し、一人ひとりのニーズに合わせる形で社会的課題を解決する新たな社会。
  - ※ **情報通信技術（ICT）** コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報コミュニケーション技術のこと。Information and Communication Technology の略。
  - ※ **TPP11 協定** アジア太平洋地域 11 国においてモノの関税だけでなく、サービス、投資の自由化を進め、さらには知的財産、金融サービス、電子商取引、国有企業の規律など、幅広い分野で 21 世紀型のルールを構築する経済連携協定。TPP は環太平洋パートナーシップ（Trans-Pacific Partnership）の略。